

【めむろ未来ミーティング】

令和3年1月28日(木)

18:30～21:10

まちづくりプラットホームめむろ

■参加者 13人（うち2名がオンライン参加）

■芽室町 町長、教育長、企画財政課長

■記録 広報広聴係 玉堀、池田

- 1 開会
- 2 まちづくりプラットホームめむろ
代表 岡田 幸造 様 ごあいさつ
- 3 手島町長あいさつ
- 4 意見交換

■対応等必要事項

下線部分については、対応を要する事項として別途担当部署に対応報告書の提出を依頼します。

■ まちづくりプラットホームめむろ

代表 岡田 幸造 様 ごあいさつ要旨

今年度に入り、町民活動支援センターの機能移転について議論してきた。

公民館に移転した時、どんな利点があり、どんな活動ができるか、どんな発展ができるかと繰り返し、話してきた。その間、町も、新たな交流の拠点として期待しているということを示していただいている。運営受託者として、どうその期待に応えていくか考えていかなければならぬ。

また、ふらっと立ち寄れる町民活動支援センターであることが大切と教育長からもお話をいただいた。

求められている期待は大きいと感じている。

今日、このあと町長が考えていらっしゃるまちづくりの体系である「芽室町地域・行政経営システム」の話があると思うが、そういうお話を聞ける場ということで、

とても楽しみにしています。よろしくお願ひします。

■ 芽室町長あいさつ要旨

(資料1)芽室町地域・行政経営システムを説明

自治のまちづくりの主体である住んでいる町民の皆さまが、満足感、納得感、生きがいを得られることが大切で、そのためには、地域コミュニティや郷土愛の醸成、そして、次世代の人材育成ということが大切であるが、それを達成していくために中心に考えているのが、「コミュニティスクール」である。

学校を起点に地域とともに学ぶ。子どもだけではなく、住んでいる町民のみなさまが関わる取り組みで、郷育、夢育として、芽室町への愛着や誇り、自己有用間の醸成、そして、夢への挑戦へつなげていく。これがめむろ未来学で、食農教育などを通じて、小中学生たちにめむろはこんなまちだよと思ってもらう機会を与えてあげたい。これはある程度、義務教育の中で実施していくことを考えている。

それを中・高校生以降になってステップアップとして参加してほしいのが、ジモト大学。

さらに深くめむろについて学んだり、特産品開発や食に対する提案などをしてもらいたい。また、講師を町民の方にもお願ひすることで、講師となった方にも緊張感、やりがい、経験になり、プラスになる。それが芽室愛にもつながっていくのではないかと考えている。

どの団体も人が少なくなっている。事務局を役場でやってくれないかという動きもある。どちらかというと少し停滞気味なのではないかと考えている。

資料に示しているように、こうした活動の拠点として、町民活動支援センターを置いているということは、期待としては、町民活動支援センターには、こうした各種団体の動きを復活させていくような役割を果たしてもらいたい。会員を単に増やすということではなく、活動していくいきいきと充実感が得られる活動ができるよう支援してほしい。

これまでも、コミュニティスクールに対して支援や協力していただいている、意識を強く感じていると教育長から聞いている。

ぜひ、引き続きかかわりを強くしてほしい。

地域コミュニティ、郷土愛のベースになる部分で一番課題を感じているのは、町内会であり、最も重要であると考えている。加入率も6割を切るところまで減っている。加入率の向上は難しい問題であるが、少なくとも今、加入している人が、町内会に加入している意義を認識していただくことや、活動そのものの活発化につながるよう活動する中で、市街地町内会連合会や、単位町内会の皆さんもふらっと相談できるような町民活動支援センターであっていただければというのが理想である。

皆さんの活動範囲は幅広いが、私が望む形としては、こうしたセンター像である。

一方で、住民参加では非常に悩んでいることもある。私自身も策定に関わった「自治基本条例」。またそれより先にできた「まちづくり参加条例」がある。あのときの住民参加条例を作るときは、町民の皆さんに興味もあったし、若さもあり、参加してみよう。パブコメしてみよう、ホットボイスに書いてみようという意識が活発だった。物珍しさもあってと思われるが。

しかし、現在はどうかというと、パブコメで今、意見は来ない。これは見方によっては、住民参加が当たり前となって成熟化したことともいえるかもしれない。

慣れや役場への諦め？ 参加への関心が薄れてきている。議会でも住民参加について議論するが答えにくくなっている。

私たちとしては、時代に合わせて、意見を出しやすい環境づくりを役場としてやること。

パブコメが何件来たからいいとかわるいということではない。住民が参加できる環境を整える。時代に合わせてというところでは、例えばSNSで意見を言えるなど。こうしたことを実施してきている。

最終目標は、若い世代が自分たちの町に誇りを持ち、

将来帰ってくるというところを目指していきたい。そうしないと町が継続していかない。だから、人材の育成にも力を入れていくという考え方である。

町民活動支援センターの皆さんには、こうした考え方を共有させていただき、今日の意見交換をさせていただければと考えている。

■ まちづくりプラットホームめむろ様からの説明を共有

意見交換

【ご意見①】

なぜここにいるのかというと、まちづくりにおいて住民参加を求めている芽室は素敵だと思ったところから、私も前段階でできることをやってみようと、すまいるモニター、議会モニターを2年くらいやってみた。

そのほかにも、さまざまな会議の参加も声かけてもらったらできるだけ行くようにしてきた。

いろいろと参加してみた結果、職員、議員との距離も近くなったが、一方で、ちょっともやつしたものもあった。

少し離れていく感覚、これは、議員から意見を求められて、そのあとも同じような意見を求められる場面が、町からもあって、毎回、その場ではかなりエネルギーを出して話すのだけど、その後も、何回も同じようなことを求められてが繰り返される状態があって、空振り感があった。

結果として、呼ばれて参加するものは自分の活動ではないなという感覚になった。求めてきた側のためににはなるが、自分たちのためになるような場ではあまりないのかなと。

議会側も行政側も町民の意見を聞いたがっている。町民側も聞いてほしいと思っている。話し合いの場は設けられているのに、互いにモヤッとして続けている。

その原因は、議会主体で設けられている話し合いの場、町（行政）主体の場はあるが、町民主体で設けられている場がないからだということに気が付いた。

町民主体の場として、まちプラさんができて、ココであればと思って、いまプラットホームめむろに関わって

いる。

町民がお話をふらつとできる場というのは、本当にありがたいところで、ちょっと挨拶だけ、ポロッとつぶやける。そんな場がなかなかない。そこでの発言こそ本音である。その声がここで拾われて、行政や議会へつながっていくとよい循環ができる、本当の意味での住民主体のまちづくりが叶うのではないか。そして、郷土愛にもあふれていくのではないか。

そしてそれが戻ってきたい町、関わりたい町になる。そうそう他にはない町になり、若い人や外からのワーケーションできた企業の人にとっても、そんな場所になるのではないか。

そして、公民館への移転も素敵だと思うが、人と人のつながりを継続していくことや未来を作り上げていくことは、時間かけてやるべきであると思うが、町民活動支援センターの契約方式が、一年契約であるということは、やろうとしている方向性とマッチしていないのではないか？

もう少し長期的に、5か年計画などがよいのではないか。そうすると、もう少しあるいに未来を語れるのではないか？

【ご意見②】

町民活動支援センターにいらっしゃる方は、本人でも気づいていないような日常の引っ掛かりをぱつと話したときに、職員の方が聞いて繋げるというのが日々の活動の大切な部分になっているのではないかと思う。だんだんと町民の皆さんからの信頼を得ていって、ちょっとした相談ができるところという、この形にたどり着いていると思う。

その中で、一年契約というのは、いつもここにいてくれる人ということにつながらないので、私も、長期的なビジョンで考えられる団体になりたいという考えには同感である。

【ご意見③】

町民活動支援センターには、相談しにきていると思わないけど、いつのまにか相談になっているような相談がたくさんくる。役場まで行くまでの事じゃないけど

といふ些細なことも、ふらつと話してもらえる。

【ご意見④】

町長から全体的な町の説明（地域・行政経営システム）のご説明をいただいたので、細かいこと言いにくいが、町民活動支援センターの最初は、活動団体が事務的なことをしたりする場所、「拠点」として昔は求められていて、スタートしているが、その後、実際はもっと大きな役割に膨らんでいっているような感じがある。

行政にこんな細かいこと言っても仕方ないようなことを拾い上げてくれる町民活動支援センターの存在は、よろず相談所的な存在になってきている。小さなことを話しているが役割は大きいと思っている。

なので公民館に移っても、これまでやってきたことが縮小されるではなく、広がっていくような場所になってほしい。周りの環境にも恵まれて、使い勝手が良いところだと思うので、最大限良さを生かしてやっていくようにしたい。

当初は、活動拠点として、年配の方の利用が多い印象であったが、本当に多世代の交流の場になっているし、今後もそうなってほしい。

使いやすい場にしたいという思い。移転にあたって水回りやカウンターについて希望をさせてもらって話してきたが、残念ながら水回りが叶っていない。今ある中でまずは工夫してやっていくと思うが、今までやっていたことができなくならないようにしていきたいなと思っている。耳を傾けてもらいたい。

【ご意見⑤】

具体的には、キッチンが欲しかった。しかし、排水がどうしても無理であった。でも、役場の担当職員にいろいろと提案して、やり取りができる、過程が楽しかった。

移転することで、人の流れが変わるので、町民活動支援センターは、仕切り直しだと思っている。なかなか何も用事のない人がくるのは、めむろ一どとは違うので難しいと思っている。課題はある。でも、子どもから高齢者まで、だれかと話ができる場所、そんな場所になるように育てる過程を楽しんで作っていきたい。

補足で、今年度、公民館に移転したらこうしたいとい

うようなことを考えるワークショップをやりたかったが、コロナ禍でできなかった。

みなさんからは、屋外も活用してやっていきたいというアイデアもある。そうしたアイデアを視覚的に見えるようにしていきたい。そのためにはキッチンは長い目でほしいなと思うところであり、今後も考えていきたいと思っているので、よろしくお願ひします。

【ご意見⑥】

めむろ一どは、買い物ついでに利用できる。会議室も活動としてちょっとした打ち合わせなども無料で使えるのが重宝された。

公民館に移ると無料でちょっとしたところというのがなかなかなくて、難しくなるのかなと思っている。2~3人でやっている団体や、お弁当を作っているような団体の活動が、コロナ対策で場所を広くしなければならないとなると、場所を借りるお金が非常に高くなってしまい、活動費がかさんでいる。こうした団体の活動を楽しみにしている人たちもいるが、残念な気持ちにさせてしまっている。

町民活動支援センターではそういった団体への場所を借りるための減免や助成は難しいので、活動場所を確保できるような支援をお願いしたい。

【ご意見⑦】

私は町民活動支援センターに印刷やコピー、パソコン作業などで支援してくれている。これは移転しても問題ないことかなと思うが、先ほどから出ているように、年配の方が、買い物ついでに来るメリットというのがなかなか難しくなってくる。何かいい解決方法がないか、今あるコミバスだと時間がかかりすぎる。公民館の地域と駅前を結ぶシャトルバスなどどうであろうか。

それと、町長のお話を初めて聞いた。ありがとうございます。住民参加条例が20年前にできていた。そういうことを知らない人も多いのではないか？当時はたくさん周知したと思うが、こうした事実も知らない人が増えてきているのではないか。繰り返し繰り返し町民の皆さんに周知していったほうがいいと思う。

具体的な例があって、昨年、芽室町から原水禁に行く人に金一封を渡したときに反発があるのは、芽室

町が非核条例を作っていることを周知しきれていないのでは？

まちづくりの基本目標、まちづくりを共に考え、未来につなぐというところ、とてもいい部分であるけど、本当にできるのか？という考え方もある。役場への不信感がないわけではない。一つは役場の移転の話の時に、場所について、けいせい苑がある場所のほうがいいという意見が7割くらいあったと思う。そういうところが反映されなかつたことや意見を言うと変な奴という役場側からの見られ方をするのではないか。住民の皆さんからは多様な意見が出ることが、大前提で、それを承認しながらやってもらいたいなと思っている。

【ご意見⑧】

町長にご説明いただいた地域・行政経営システムを拝見して、ひとつ一つの事業は、広報や新聞で発信されるから、わかるが、こういうフローを見ると、ひとつ一つの事業がこう繋がるのかということがわかった。総合計画の中でどんな位置づけなのかとか、芽室町を目指すところを知ることができた。こういうことをもっとみんな知れると、いろんなことがつながるんじゃないかな。未来ミーティングのような形は、これからもぜひ続けてほしい。

また、さらには、語る場面があるともっと理解が進むのではとおもった。

私の町民活動支援センターのかかわりは、所属している会の関わりで、町民活動支援センターまつりのときに声掛けしてもらったきっかけでスタートした。

すると、今まで関りがなかったような他の団体の動きがわかってよかったです。今年度になって、やはりコロナで繋がれなくなった。

でも、それでも町民活動支援センターから、「オンラインで学ぼう」ということも提案があって、団体でオンラインを学ぶ機会がすぐに企画してもらえた。そんなフットワークの町民活動支援センターは素晴らしいと感じた。

また、今回だけでなく、どこに行ったらいいかというようなものでも対応してくれたことが信頼につながっている。

そうしたことから、やはり、めむろ一どだと買い物つ

いでのふらつと来て相談できていたことが、公民館でできるかということは懸念している。

それと、役場は人事異動がある。町民活動支援センターはその都度、役場の中で関わるところに話をしていっているが、そうではなくて、役場の一つの部署でセンターと連携取ってやるような専属のところがあることで、町と町民活動支援センターとの継続性をもたせるうことにつながるのではないか。役場内で繋げる仕事をしっかりとやってもらえると、継続性を保つことができるのでないか？経験のない職員でも組織としてカバーできるのではないか？

心配事として、町民活動支援センターには夢があり、楽しいが、移転していくことで業務量が多くなりすぎていかないか、また、会計を見たときに、収入が委託の中にもっと貰えるようなものがあればいいのに感じている。

町民活動支援センターじゃなければならないことと役場が担うべき部分、それ以外という役割分担を、町民活動支援センターのいいところを残せるように考えてもらいつつ、公民館に行ったときに新たな交流の拠点となるような体制づくりが必要ではないか。

【ご意見⑨】

町民活動支援センターの活動を一町民として見て来て、この活動の重要性が町民にどんどん浸透し、期待度が高まっている。いい仕事をしているからであるが、その分、仕事量が増えている。さらに移転して環境が良くなればその負担がさらに上乗せられるのではないか、大丈夫かと心配。

あと、これにNPOの運営の委託の不安。複数年の長期的ビジョンも含めて、考えてほしい。人数増えた方がいいのではと思う。いまいるスタッフが、永遠にいるわけではないので、入れ替わることも想定した人員や予算を考えるべき。町には、それを含め余裕のある支援を考えてほしい。

人材育成的なというところで、役場の若手職員の研修として、町民活動支援センターが講師になるような立場で町職員に町民活動支援センターやまちづくりプラットホームめむろのことを知ってもらう、関係性を良

くする機会を作ってはどうか。

もう一点。公民館への移転で、キッチンの話があつたが、不安要素として、公民館は暗くて重いというイメージがあり、良くない。ある程度、足を運びやすいようなことを考えてほしい。足を運びやすいようにレンガの色の暗いイメージを、色彩面から明るくするようなアプローチは重要ではないか？検討をしてほしい。

最近、まちづくりについて、人が集う場所への「デザイン化」ということに対する事例をみて、心地よく過ごせる場づくりというのを色々な先進事例を見て進めていった方が良いのではないか。事前にいろいろなものを見せてほしい。できる前に共有してもらいたい。町民が足を運ぶという行動への意識づけに重要なと思う。

【ご意見⑩】

よろずとして人が集まる町民活動支援センターはすごいところと思っている。町づくりのパートナーとしてすばらしいと改めて感じる。⑨の方のご意見も整理されていてよい。町には、財政的なものも含めて、今後も進めてほしい。

公民館は、今、料金的にも出入りしやすいので、そういうことも、維持できるように、また、お茶を飲んだりといふこともコミュニケーションには大切。湯沸かし器であったり、そうした飲み物が飲めるように改善をしてほしい。

【ご意見⑪】

教育長に質問ですが、公民館に移動するにあたって、「ふらつと立ち寄れる場所」というのが重要であると思うが、そういう意味で、町民活動支援センターに期待することはどのようなことか。

【程野教育長】

貴重なお話をありがとうございます。

まずは、町長から説明がありましたし、町民活動支援センターの歩みのプリントにも、「住民の自己実現、住み続けたい町、暮らしたい町に向かって持続可能なまちづくり」とありました。私もその基盤を担う

組織団体と思っている。

今日は、住民と行政がタイアップして未来に向かってまちづくりをしていくと、ここを共有できたのは大きいと思うのが1点。

もう一つは、移転について私も期待している。公民館は単なる箱物ではなく、今後は町の拠点として、特に、図書館と連動しながら町民活動支援センターと連携できないかという発想がある。

町民が気軽に集って、学び、育ち、そして、「つながる」という、つながりが広がるような仕組みができるのかと思う。

そのつながりを作る1つが、「コミュニティ・スクール」だと思う。町民活動支援センターの皆さんとは、2年間協働させてもらったり、また、CSコーディネーターとしてもお世話になり、コロナ禍でも、その輪郭が着実に形になっている。

気軽に立ち寄れて、学び、自己実現でき、生涯にわたって成長できる、まちに親しみ愛着を感じ、その後にも広がっていく、そのような形になればと思う。

また、図書館は、レファレンスサービス機能として司書が相談に乗っているが、その部分でも連携し、知識を調べるだけではなく、人の紹介などもできるサービスを図書館でもできないだろうか。

そうしたことで、生涯学習の拠点のような形で、図書館においても、福祉のサポートなどに、機能を進化させていくよう町としても頑張らねば。

また、リノベーションのことも、可能な限り実現できるようにしていきたい。

教育委員会としては、心豊かな人づくり、将来に向かって学び続ける生涯学習の推進、ここに繋がるようやっていきたい。

柏樹学園もコミュニティ・スクールとつなげていきたい。他の団体ともコミュニティ・スクールでつながり、学校や子どもたちを核としたまちづくりを発信していきたい。

【ご意見⑫】

シニア世代はめむろーどには行きやすいが、公民館でも、じゃがバスが目の前に止まつたらいいなと思う。特に冬は北側の入り口に止まってほしいなという思いがあり、どうしたらふらっと立ち寄れるを実現できるか、歩きでも、ベビーカーやシルバーカーでも回遊できるようなフラットな導線作りができたらいいなと思っています。

【程野教育長】

駐車場あたりを使って、外でのイベントを打ち町民活動支援センターが移転したこと示していくことにより、町のビジョンがみえるようにしていきたい。

まさに生涯学習の拠点であり、そこに町民活動支援センターに関連する皆さんの姿や町民の姿が浮かび上がるようにしていきたい。

【手島町長】

まず、住民参加での反省点としては、やりっぱなしでフィードバックがなかったり、定員を決めて、公募と言いながら声掛けしたりという部分があって、住民参加の形を作つて、結局は町が主導してみたいに形になってしまふことが課題であると考えている。

町民の皆さまの意見が、しっかり反映されていくというところをしっかりと示していくことが、次の住民参加のモチベーションになると思うし、必要だと思っている。

役場は、この10年で100人の職員が入れ替わっている。これは現実で、なかなか根性論で仕事をやらせるといつても通用しない。業務の効率化、ワークライフバランスが大事になってくる。

「こうしたことで時間を創出し、その時間をインフォーマル活動(PTAとか、自主研修とか)そういう機会で町民の皆さんとの接点を作つてほしい」と必ず面談で言っている。この規模の町では、こうした活動が重要で、ただ仕事しているだけでは、ただのサラリーマンになてしまうよと。信頼感を得るためにプラスアルファの活動にも考えをもってもらいたいと

話している。

そういう手段の一つとして、地域担当職員がいまあまり機能していない。一つお願いしているのは、町内会の役員会に入ってほしい。会長だけではなくて、役員会に強制的にに入ってほしい。ということをお願いしている。

昔、まちづくりにかかかわっている人は、100人くらいいたと思いました。なので、その発想から埼玉県の志木市が第2役場といって、100人委員会のようなものにトライした。しかし、これでは議会はどうなの？という声もある

役場は、アリバイの住民参加ではなく、テーマごとのMMM(未来ミーティング)をやる、オンラインでもいい。こうした具体的なテーマ別の住民参加の形はどうかと考えている。

ご意見にもあった団体活動の拠点の考え方は、以前は、印刷、団体紹介、補助制度だったのが、それが非常に幅広くなっていることは同感である。

肩に力を入れず、ちょっとした生活の引っ掛かりを話せる場所とするならば、公民館もそういった市民の憩いの場にしていきたい。

ファミリーは新嵐山。多世代の憩いの場として公民館を中心とするエリアをもっていきたい。このエリアは、庁舎も含めてやっていきたい。駐車場や、庁舎の屋上なども活用しながらやっていきたい。周りの自然も素晴らしいと思う。

次に、団体の場所、利用料支援はいろいろなところからも話があるのは承知している。政策に則つるものであれば支援できると思うが、線引きしなければならないことから難しいなと考えている。説明しきれるかどうか、なぜこの団体だけなのかというところの説明を果たすことも必要。

また、このNPOの皆さまの活動は、素晴らしいと思っている。

体制の強化もそうだが、町民活動支援センターの

活動を今日説明させていただいたような地域・行政経営システムのいろいろな事業とかみ合わせてほしい。そうするといろいろな人・もの・金が付いてくる。町の予算化というところにもつながっていくと考えている。

そこに町民活動支援センターの思いもかけ合わせていいってほしい。町民活動支援センターの活動も町の事業ともかみ合いながら、寄せていくのではなくて、かみ合わせながらやっていけば、複数年で委託契約をしていくこともいいと思う。

町の政策と目指す方向を長期的にみて、かみ合わせていいって予算化していくことを考えてもらいたい。

町民活動支援センターの位置づけが重要になっていくと、おのず安定的な状況になっていくと思うが、語弊のないようにと思うが、貴NPOがやりたいことと、町が事業として請け負ってもらおうとしていること、そこが合致してくるようになると、より一層厚みが増していくのではないか。郷土愛やコミュニティスクールなどの取り組みとかみ合うように進めていくといったことである。

【ご意見⑭】

この団体ができたのは2年前。自分たちがしたい活動はなんなんだろうかということも考えている。全部が委託受託の関係だけで成り立たせるのは難しいと思っている。ただ、現実問題として、今の状況では、センター職員の生活が成り立たない状況にはある。これだけの仕事や期待がきているというのは、今まで以上にやらなければならないこと、仕事量になると思うが、そういう現実もあることは、無視できないことである。そのような中で、現状の委託料などでは、財政的にどうなのかということは思っている。

コロナ禍でも前に進めている。自分たちもやりたい思ひだが、現実的にきびしいところもある。

それぞれのサークルも厳しい現実に向かいつつある。130団体くらいあり、その中で60団体くらい写真ある。自分の活動の場を探している人もいる。これだけのものがあって、つながっていくことはすごいよねとなっている。

自分も関わってきて、すごい状態になっていると実感もある。高齢化して苦しんでいる現状もあるが、病院の話も、新嵐山の話をしても、町民の皆さんのが大変たくさん集まる。エネルギーがすごい。町外から見たらすごいこと。

町民の活き活きしたものが見えるようにできるのではないか。私たちは公民館でも、できるのではないかと思う。

登録団体の人たちは、自己実現の趣味のサークルの人であっても、なにか役に立てるのではと、コミュニティスクールの意見交換会で出てきて、趣味から一步踏み込んで、まちづくりに関わっている。こういう団体が、自己実現だけではないというところが、この町はすごいよねとなる。

生活支援体制整備事業も 30 団体、高齢者の問題もこういうところがなくなったらどうなんですか？と思う。貴重な役割果たしているのに、期待しているのはわかるが、それに見合う後押しするような、町の財政的な負担はあるのかと思っている。

こうしたそれぞれの団体は、芽室町の魅力だと思うのだが、こういうものを発信しないとダメではないか。

こうした「人」が成し遂げている芽室町の魅力、大事な役割をしているということを、ちゃんと応援してもらいたい。もう一度、支援の在り方として考えてもらいたい。

かなりレベルの高い対応をしていると思っている。
現状に見合ったような支援をお願いしたい。

【手島町長】

芽室は、資源の 1 つとして人があると強く認識している。自治のまちづくりの中で、うまく「かみ合わせる」ということを考えていただくことで、支援の在り方はいろいろとまだ考えられるのではと考えます。

また、こうした意見交換の機会がもっとないと、現場でどのような活動があるのか、現場の熱が私自身も理解が足りない部分もあるのかもしれない。そういうことから、担当からも報告も見ながら、少なくとも年に 1 回、2 回話し合うようにしていきたい。

具体的には、予算に反映していくためにも、来年度も夏から秋に 1 度やっていきましょう。8 月、9 月くらいにむけてやっていきましょう。ビジョンや提案を考えて頂きたいと思う。

【ご意見⑯】

私たちの NPO がすばらしいのではなく、団体の皆さんのがすばらしいので、それを発信するだけで芽室町の町民活動はすばらしいねとなる。

なので、隨時発信していきたいし、町長にもお伝えする術があるといい。

【手島町長】

地域・行政経営システムの中でも、町民活動支援センターは、唯一「機関」として明確に位置付けている。なので、それくらい重要な位置づけであることを改めて共有させていただけたら。

【ご意見⑰】

改めて、テーマ別での話し合いの場を作っていました。

【手島町長】

特に令和3年度は、公民館への移転に向けてしっかり話し合いしながらやっていきたい。お互いに共有していきながらやっていきたい。

未来ミーティングという形で申込をしていただければ、必ず調整はさせていただくので、ぜひ、今後もこうした場を作つていければ。

【ミーティングの様子】

